

全国から教育関係者が参加

ESD (海洋教育) の公開授業研究会を開催

11月22日、町内小中学校のESD(海洋教育)公開授業研究会が開催され、町内はもとより、全国から計63人の教育関係者が参加しました(会場：明和小学校)。これはユネスコスクールである町内の小中学校が「只見と海のつながり」を意識した海洋教育の取組を公開するもので、昨年度は只見小学校と季の郷湯ら里で開催されています。

当日は、明和小4・6年生の授業が公開され、児童たちがこれまで学んだことを共有し、真剣に話し合う姿が印象的でした。その後、各小中学校が研究成果を報告し合い、海洋教育を通じた広く大きな視点から故郷「只見愛」を深めました。



▲6年生の公開授業

ESD……持続可能な開発のための教育、持続可能な社会づくりの担い手を育成する教育活動

“福祉”について考える機会に

「社会福祉の集い」が開かれる



▲感謝状を受け取る五十嵐さん

11月24日、季の郷湯ら里で「第2回只見町社会福祉の集い」(主催：町社会福祉協議会)が開かれ、民生児童委員や地域づくりサロン関係者、他町の社会福祉協議会職員など約80人が参加しました。

当日は、長年に渡って社会福祉の増進に寄与したとして、前只見町赤十字奉仕団委員長の五十嵐聰江さん(只見)に感謝状が贈呈されました。また、竹田綜合病院皮膚科科長の岸本和裕先生による特別講演が行われ、仕事と「人間学」をリンクさせる「ほんまもん」の医療について紹介がありました。

地区や業種の垣根を越えて

町の“青年”たちが交流を深める

11月30日、町が主催する「只見町青年交流会」が季の郷湯ら里で開催され、32人が参加しました。同会は、地区や業種の垣根を越えて若い世代(39歳以下)が交流を深めることを目的に開催されたもので、特別ゲストとして「只見ふるさとの雪まつり」に7年連続での出演が決定しているマジシャン芸人「あっけらかん」のお2人にも参加をいただきました。

当日は、テーブルマナー講座(和食)やマジック漫才の披露などが行われ、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



▲「あっけらかん」の2人がマジック漫才を披露

「奥会津チャレンジライフプログラム」にて 只見町での生活や仕事を体験

11月28日～12月1日の4日間、「奥会津チャレンジライフプログラム」来町1号となる^{たかはらみどり}高原緑子さん(都内在住)が只見町を訪れ、町内での生活を体験されました。同プログラムは、仕事体験や地域交流を通じて奥会津の魅力を発信する県事業で、昨年の11月から今年の3月まで実施されます。

高原さんは、移住体験ゲストハウス「ORAHO」(黒谷)を拠点に、布沢集落での^{オラホ}糺り体験や合同会社ねっかでの米焼酎仕込みの手伝いなどを行いながら、地域の皆さんと交流を深めました。

同プログラムを通じ、高原さんは「今回の体験を都内で生活する大人や子どもたちに伝え、新たな交流につなげたい」とお話ししてくださいました。



▲糺り体験を行う高原さん(中央)

サンタさんの登場に大喜び！ 「朝日クリスマス会」を開催



▲会の冒頭にはサンタクロースが登場

12月1日、毎年恒例となっている「朝日クリスマス会」(主催：朝日地区地域づくり委員会)が朝日振興センターで行われ、町内から約40人の子どもたちと保護者の皆さんが参加しました。

クリスマス会では、ALT(外国語指導助手)の皆さんなどが扮するサンタクロースが登場し、子どもたちにお菓子のプレゼントを手渡しした後、映画鑑賞やビンゴ大会が行われました。サンタクロースの登場もあり、子どもたちには笑顔があふれ、今回も楽しいクリスマス会となりました。

主役は小さな子どもたち！ かるがもクラブの「クリスマス会」

12月6日、かるがもクラブの「クリスマス会」が保健福祉センターで開催され、町内から10組の親子(未就学児)が参加しました。

今回も民生児童委員の皆さんに協力をいただき、壁に貼られたクリスマスツリーにみんなで仲良く折り紙などを貼り、飾り付けを行いました。その後、サンタクロースが一人一人にプレゼントを手渡し、子どもたちは不思議そうな表情を浮かべながらも、嬉しそうにプレゼントを受け取る姿が印象的でした。



▲親子で集合写真

「ふくしまの元気！応援CM大賞2019」

高校生が只見町をPRするCMを作成

12月8日、KFB福島放送の「ふくしまの元気！応援CM大賞2019」の審査会がユラックス熱海(郡山市)で開催され、只見町を含む県内の33市町村が参加しました。この企画は、参加自治体が15秒CMを作成して自分たちのふるさとをPRするもので、本町も例年参加しています。

今年は、只見高校パソコン部がCM作成を行い、出演者も生徒や先生が務めました。CMは、大ヒット映画『君の名は。』(2016年)を参考に、短いカットでテンポよく町内の美しい風景や観光施設などを紹介する内容となっています。



▲生徒による撮影の様子(田子倉レイクビュー)



▲壇上でCM作品の紹介をする高校生と関係者(審査会会場にて)

残念ながら、審査会での入賞とはなりませんでしたが、CMを通じて町の魅力を広く発信するとともに、パソコン部にとっては企画から撮影、編集までを独自に行い、1つの作品を作り上げた非常に貴重な機会となりました。

参加市町村のCM作品は、全作品が今年の4月以降、KFB福島放送のチャンネルで放送されるほか、同社ホームページでも随時公開される予定です。皆さんぜひご覧ください。

只見町ブナセンター講座にて

「小林早乙女踊り」を紹介

12月15日、只見町ブナセンター講座「小林早乙女踊りの歴史と民俗」が只見振興センターで開催され、町内外から約30人が参加しました。

只見町の「早乙女(田植)踊り」は、新年に稲作の所作をまねて踊り、その年の豊作や家内安全を祈る行事として伝承されていますが、その原形は200年程前に会津盆地で生まれたとされます。町内では、小林・梁取・小川の各集落で現在も早乙女踊りが行われています。

当日は、「小林早乙女踊り保存会」の皆さんが踊りを実演された後、「NPO民俗芸能を継承するふくしまの会」の懸田弘訓理事長より、早乙女踊りの歴史やその意義などを紹介する講演が行われました。



▲小林早乙女踊りの歴史などを紹介した懸田理事長



▲「小林早乙女踊り保存会」の皆さんによる実演



町の話

皆さまからの身近な情報をお待ちしています。ご意見ご要望もお気軽にお寄せください。
地域創生課 ☎ 82-5220 Fax 82-2117

「子供たちに夢を贈る会」などで

サンタクロースが子供たちにプレゼントと夢をお届け!

12月24日、只見青年会と仲間たちによる「子供たちに夢を贈る会」が行われました。これは、町内の青年や高校生扮するサンタクロースが事前に預かったプレゼントを各家庭に届けるというもので、今年は只見・朝日地区で8軒の依頼がありました。

子供たちは、驚きながらも嬉しそうにプレゼントを受け取り、感謝の気持ちを伝えた後、「良い子にしていたらまた来るよ」というサンタさんの言葉に目を輝かせていました。

このほか、数団体のサンタクロースの姿も見られ、クリスマスイブの只見町では多くのサンタさんが往来した1日となりました。



▲サンタさんからプレゼントを受け取る子供

文字を書くことの楽しさ・難しさを伝える 「書初め教室」を開催



▲学年毎の課題を練習した児童たち（朝日振興センター）

12月26日、朝日振興センターと明和振興センターで「書初め教室」が行われ、町内の小学1～6年生約40人が参加しました。講師は今年も日黒仁也さん、ふみ江さん夫妻が務められ、「福島県書きぞめ展」の課題である「雪明かり」や「希望の朝」などを毛筆で練習しました。また、1年生はフェルトペンで字の練習を行いました。

近年、スマートフォンなどの影響で文字を書く機会が減っていることもあり、同教室を通じ、気持ちを込めてしっかりと自分の字を書くことの大切さが伝えられました。



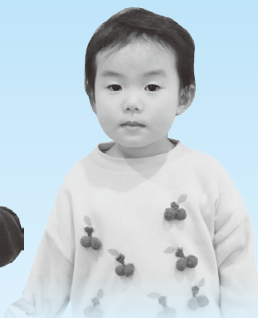
鈴木 悠真くん
(小川)



酒井 希乃花さん
(黒谷)



赤塚 壮志くん
(福井)



目黒 百笑さん
(館ノ川)

虫歯の ない子



(12月24日)
(3歳児検診)